



編集・発行

大阪府立 呼吸器・アレルギー医療センター

大阪府羽曳野市はびきの3丁目7-1

TEL: 072-957-2121

FAX: 072-958-3291

HP: <http://www.ra.opho.jp>

E-mail: kokyucen@ra.opho.jp

歯をみがきましょう

感染症センター長 松本 智成

誤嚥性肺炎とは、当センターの入院患者、外来患者の間で時々耳にする言葉です。誤嚥性肺炎は、唾液や食物などが誤って気管に入り、口の中の細菌が肺に達することで発症する肺炎の事をいいます。物を飲み込む力や異物を吐き出す力が低下し、免疫力も落ちている高齢者がかかりやすい病気です。しかしながら、この肺炎は、うがいと歯磨きで口の中を清潔にすることで予防することができます。



誤嚥性肺炎は95年の阪神大震災後、被災地の高齢者に多く発生しました。神戸常盤大短大などの調査によると、約1000人に達した震災関連死のうち、肺炎が2割以上を占めたそうです。このため04年の新潟県中越地震では、県歯科医師会などが歯磨きやうがいの指導を徹底して行い、肺炎による死者を一桁台にとどめることができました。

ところが、東日本大震災では被災地域が広範囲にわたり、水不足やマンパワーの不足で口の中のケアに手が回らない状況が続いています。津波で大きな被害が出た宮城県石巻市にある石巻赤十字病院では、今年の6月9日までに昨年の同時期に比べ、約1.6倍となる14人が誤嚥性肺炎で死亡しました。同病院は「避難所生活が続き、不衛生な状態のお年寄りが犠牲になっているのではないか」と懸念しています。

阪神大震災で被災者支援にかかわった足立了平・神戸常盤大短大教授（口腔保健学）は「歯磨きやうがいは被災地では生死にかかわる。免疫力が落ちた障害者や高齢者には支援が絶対に必要だ」と注意を促しています。

当センターの栄養サポートチーム(NST)、感染対策チーム(ICT)では、入院患者の口腔ケアに力をいれています。口の中をきれいにする事で誤嚥性肺炎を予防し不必要な入院をさげ、抗生剤の過度の使用を防ぐ事が出来るからです。

当センターに受診中の皆様、毎日歯を磨き誤嚥性肺炎を減らしましょう。

8月の教室案内

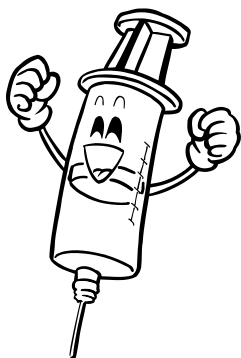
*カンガルー教室	●8月3日・17日・31日	午後1時半～	第1会議室
*喘息教室	●8月はありません。		
*禁煙教室	●8月4日	午後3時45分～	医療情報コーナー



病理検査室で私達、臨床検査技師は、胃カメラなどで取られた組織や、手術で摘出された組織などを病理医が診断できるように標本にしたり、喀痰、尿、婦人科材料など細胞診として出された検体の中に、がん細胞がないかなどを顕微鏡で検査しています。病理検査室の業務の中でも今回は子宮頸がん検診についてお話しします。

子宮頸がんは、日本では20~30才代の患者が急増傾向にあり、実際の業務の中でも若い方ががんを見ることが増えてきました。

皆さんは昨年話題になった「子宮頸がんワクチン」を覚えていらっしゃいますか？



このワクチンは子宮頸がんや子宮頸部異形成を引き起こす原因のひとつであるHPV（ヒトパピローマウイルス）に対するワクチンです。HPVは主に性交渉で感染することがわかっていますので、性交渉経験がないうちに接種することが重要だと言われています。

HPVには様々な型があり、感染しても全てがん化するわけではありませんが、一部が5~10年以上を経てがんの発症につながる事があります。HPVワクチンは全ての型に有効ではありませんのでワクチン接種したからといって婦人科検診を受けなくてもよいというものではありません。

HPVワクチンを接種された方も、これから接種される方も、そして接種しない方も定期的に婦人科検診を受けることをお勧めします。

早期発見することがあなたの大切な子宮、ひいてはあなたの生命を守ることに繋がります。子宮頸がんのみならず、がんは早期発見することが大切です！

アトピーサマースクールを開催しました（7月27日から8月10日）

アトピーによるかゆみのために睡眠が妨げられたり、外観の問題で日常生活を送ることが困難な子供たちに、快適な生活を取り戻し、健やかな成長の手助けになることを目的に行っています。

（小・中学生が対象）

2週間入院し、個別に皮膚炎の治療をしながら退院後もよい環境で過ごせるよう集団教育・指導を行います。例年、夏休みに開催しています。

興味のある方は地域医療連携室までお問い合わせください。